

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式, 論述式, 選択式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

非典型的な問題が出題され、試験場での題意の理解力と思考力が試される。
 数値計算が多い。論述問題が出題される。
 人名・用語や、物理量の数値など、知識を問う問題が出題される。
 原子分野が出題される。

その他ピックス

なし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式	小問集合 (可聴音の振動数範囲, 花崗岩の耐圧, 炭素による年代測定)	物理基礎 物理	物理の基本原則・法則に基づき、考えさせる小問集合。単に公式に当てはめるだけではない、基礎の理解の深さを問うものになっている。	やや易
II	問形式 空所補充	電磁気 (電気振動, 音波への変換)	物理	問1は、単純な回路における電気振動。問2は、問1と比較して、複雑な回路の電気振動を考察する。設問数は多いが、その分誘導も丁寧なので、題意を把握し、高得点したい。最後の設問は、電気振動を音に変換したもので、うなりが生じている。同内容のものが、以前にも出題されたことがある。	標準
III	問形式 空所補充	力学 (ビーズ紐の運動の考察)	物理基礎 物理	諸説あるニュートンビーズに関して、仮定に沿って解析を進め、その問題点まで考察する問題。ほとんどが見慣れない問題のため、題意を正確に把握し、注意深く進める必要がある。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本・典型問題と、複合的な問題・見慣れない非典型問題が出題される。また、数値計算が多い。見慣れない問題では、題意の把握に時間を要するため、時間的な余裕はない。題意を正確に素早く把握する力、迅速な計算能力が必要であるから、過去問や程度の高い問題集などで、よく訓練しておきたい。また教科書に載っている細かい知識や、原子分野からの出題が見られるので、教科書にも目を通し、知識や理解を深めておくようにしよう。